

PrEPって何だろう？

プレップ

HIV予防の世界の流れとSexual Health

PrEPとは、HIVの治療薬を事前に内服してHIV感染を予防すること

PrEP（pre-exposure prophylaxis：曝露前予防）とは、HIV の治療薬を事前に内服して予防することです。**HIV は PrEP で予防可能な時代です。**コンドームの適切な使用と感染者の早期診断・早期治療と併せて、世界の先進地域では新規 HIV 感染ゼロも夢ではなくなっています。

PrEP は 10 年以上前から世界各国で予防の重要な柱として公的に採用されており、国内でも 2024 年 8 月末にツルバダ配合錠という HIV の治療薬が、ようやく薬事承認（公的な販売・使用の許可のこと）されました。とはいえ、国内では保険収載はされていない（健康保険は使用できない）ので、**リスクの高い（コンドームを使用しない・できない、不特定多数との性行為がある etc）当事者の間では、安価なジェネリック薬の個人輸入やクリニックでの自費処方による PrEP が草の根で広がっています。**

どんな効果があるの？方法は？

PrEP の最もスタンダードな方法は、ツルバダ配合錠を毎日の錠内服する方法で、適切に実施すれば、感染しないことが知られています。**当院では、実際に 95.8%の予防効果が認められています。「きちんと内服できるか」が鍵となりますが、当事者の内服遵守率は高く、国内でも自分で自分を守るための重要な選択肢となるでしょう。**

PrEP を始める際はまず、HIV 検査を受けて HIV にかかっていないことを確認する必要があります。ツルバダ配合錠だけでは治療には不十分で（予防には十分）、HIV にかかっている方が PrEP を始めると薬が効かなくなってしまうです。PrEP を始めた後も 3 ヶ月ごとに HIV 検査で陰性を確認して継続する必要があります。また、時に腎臓に影響がある場合があるので、腎臓の検査も開始前とそれ以降で定期的に行います。

PrEP開始時、開始後のフォローアップ検査表

	開始時	1 ヶ月後	3 ヶ月ごと	6 ヶ月ごと	12 ヶ月ごと
(1) HIV	★★★★	★★★★	★★★★		
(2) 性感染症	★★		★★ リスクが高い場合	★★ セックスがあれば	
(3) 腎機能 eCrCl	★★★★			★★★★ 50 歳以上や eCrCl<90	★★★★
(4) B 型肝炎	★★★★				
(5) C 型肝炎	★				★
(6) 妊娠	★		★		
(7) 脂質代謝	★				★

★★★★必須 ★★強く推奨 ★推奨（一部、対象により）

出典：日本における HIV 感染予防のための曝露前予防（PrEP）利用者ガイドより

どうして必要なの？

HIV の予防には、コンドームの適切な使用と不特定多数との性行為をしないこと（safer sex といいます）が基本です。とはいえ、医療の現場では、「コンドームを相手がかしてくれない」という相談を受けることも多く、男女・sexuality の別なく、性的同意が浸透していない現状では、safer sex には限界があり、主体的に自らを守る PrEP などの手段が必要となる場合があります。「コンドームを使わないのは良くない」と上から目線で非当事者が非難しても問題は解決しません。

CHECK !

PrEPをもっと知りたい

PrEP の服用方法は？

薬の入手方法は？

PrEP の効果は？

必要な検査は？

PrEP についてもっと詳しく知りたい方は
下記の情報サイトをご覧ください



PrEP@tokyo



PrEP in Japan

Sexual Health：性の健康は当事者の権利

Sexual Healthの概念

- 1 全ての人の「性の権利」を基本的人権の不可欠な部分として保証
- 2 ジェンダーの平等の促進
- 3 あらゆる形態の性暴力および性的虐待の排除
- 4 性に関する情報・教育へのアクセスの保証
- 5 リプロダクティブ・ヘルスからより包括的な「性の健康」へ
- 6 HIV・STIの蔓延阻止のために、自発的な検査・治療・予防へのアクセス確保
- 7 性の悩み、性機能不全、性障害の存在の認識と取り組み
- 8 性の喜びは幸福（well-being）の一要素であるという認識の確立

出典：性の健康世界学会モニトリオール宣言より（抜粋・要約）

そんな中、世界では、Sexual Health の考え方が普及しつつあります。もともとは権利・人権の話ですが、医学に即して言えば、性の健康も「健康で文化的な最低限度の生活」で言う健康に含まれ、自らを主体的に守るために知識・予防法・検査・治療へのアクセスが保証されなければいけないというコンセプトです。Sexual Health の考え方の具体的な 8 つの柱を左に示します。

HIV でも梅毒など他の性感染症でも重要なことは、性感染症の多くは無症状であることです。

そのため、有効な対策には、高リスク者の自発的な検査や予防が必須ですが、知識・情報がなければ検査に行かない・予防しないので、性の情報提供もまた必須になります。**Sexual Health の考え方では、性のネガティブなイメージをニュートラル（中立）なものにして、抑圧されている性の情報を当事者が自分を守るための権利・知る権利として保障することが重視されます。**

PrEP の情報も当事者が自分を守るための権利として重視される、これが世界の PrEP と Sexual Health の現状です。